

【お財布、保険証、おくすり手帳…いつものバッグが身の助けに】

家を飛び出すときになぜか「そうだ！ 免許証！」とだけはひらめいて、このバッグと一緒にあわてて持ち出したのですが、中にお財布、保険証、診察券、おくすり手帳などが入れっぱなしになっていたのが幸いでした。薬自体は持ち出せませんでした。後から病院に行って、処方してもらうことができました。保険証や免許証は身分証明書代わりにもなり、後々本当に役に立ちました。大事なものはひとまとめにしておく、いざというときにさっと持ち出せると思います。欲を言えば、お財布の中にもう少し多めに現金をいれておけばよかったかも。

東日本大震災 新地町 60代 女性「内閣府一日前プロジェクト」より抜粋

非常時の持ち出し品



いざという時に困らないように、非常用品を用意しておきましょう。避難時に最初に持ち出すものは、現金や身分証明書などの貴重品やライト、救急薬品、軽食などです。いつも持ち歩くバッグに入っている品物もあると思います。また、家庭での備蓄は、最低3日分は必要といわれています。家族構成や生活スタイルによって必要な品物は異なります。災害や事故にあった時を想像し、「ないと困るもの」を中心に準備しましょう。

◆ 「ないと困るもの」リスト ◆

☐ _____	☐ _____
☐ _____	☐ _____
☐ _____	☐ _____
☐ _____	☐ _____
☐ _____	☐ _____

防災用品として販売されている品物だけが、災害対策用品ではありません。買い物をするときに、防災の視点で品物を見てみましょう。意外な掘り出し物があるかもしれません。常日頃から、少しでも防災を意識して生活することは、災害に対しての大きな備えとなります。無理のない範囲で取り入れてみませんか。

わたしを守る防災対策

～知ってほしい女性視点の防災対策～



八王子市

平成26年3月発行 発行者 八王子市

【問い合わせ】 八王子市 市民活動推進部 男女共同参画課 ☎042-648-2230

生活安全部 防災課 ☎042-620-7208

いつ起きるかわからない 災害に備えて…

日頃からの備え ～ 避難所に行かなくて済むように

災害が発生した時、あわてないためには、日頃からの備えが大事です。
家具類の転倒・落下・移動防止対策は、誰にでも有効な地震対策です。自宅が無事であれば、不自由な避難所生活をする必要はありません。

次に、生活物資の備えです。生活に必要な物資は、人それぞれで違うものです。自分や自分の家族にあった備えをしましょう。

基本の備え

- 住宅の耐震化や家具転倒防止
- 物資の備蓄
(水、食料、ライト、簡易トイレ、ラジオなど情報を得るもの)

自分や自分の家族にあった備え

【例】常備薬、アレルギー対応食品、乳幼児用品、介護用品など



サイズ展開が豊富な女性用下着は、市の備蓄では対応が難しい品物の一つです。また、生理用品は、発災後すぐに配布できるとはかぎりませんので一定量は備えていただくと安心です。リップクリームやハンドクリーム、コンタクトレンズ洗浄液、入れ歯安定剤なども災害時には入手が困難になる可能性があるといわれています。基礎化粧品も肌に合うものが手に入らないことが予想されますが、市で備蓄することは困難な品物です。

一口に非常時に備えると言っても、使う人によって必要なものが異なります。私は、中味が分かるように一覧表を箱の上に貼っています。お年寄り特有のものとしては、入れ歯・いたみ止め、虫めがねなど。赤ちゃん・お母さん用には、おむつ、ウェットティッシュ等々55種類ぐらいあります。赤ちゃん用の非常食は賞味期限が短いのが困りものです。最初は、確かに大変でしたが、一度揃えてしまえば次の年からは賞味期限のせまっているものは使ってしまう、新しいものに交換すればいいわけです。「何が必要だろう」と考えながら箱につめるのも案外楽しいものですよ。

平成 17 年台風第 14 号 杉並区 70 代女性

「内閣府一日前プロジェクト」より抜粋

自分と自分の家族を守れるように備えると共に、
地域防災の担い手となる意識を持ちましょう。

避難所生活をするようになったら

平成 7 年の阪神・淡路大震災や、過去の災害を経て、災害対策には、女性の視点を活かすことが重要と認識されてきています。それでも、平成 23 年の東日本大震災では、様々な問題がありました。

- 女性用品の不足 ○授乳室がない ○洗濯をした下着を干す場所がない
- 女性だから当然と大量の食事準備を割り振られる
- 男女の別のない暗いトイレ ○間仕切りや更衣室がない



避難所で生活することになった時は、次のようなことに気をつけて男女が共同して生活ができるように工夫する必要があります。

☆避難所の運営や、共同作業には積極的に参加しましょう

家事・育児の場でありながら、男性主体の運営になりがちです。

女性の意見を反映した避難所運営ができるように積極的に参加しましょう。

☆男女の違いに配慮した対応をところがけましょう

女性と男性では災害から受ける影響に違いがあります。

個々のニーズに配慮できるようにお互いに声掛けをしましょう。

☆男女の人権を尊重して安全・安心を確保しましょう

女性や子どもに対する暴力の予防に取り組む必要があります。

プライバシーの確保ができるように工夫する必要があります。

男性は平等に見ようとするけれども、女性だけにすると偏ってしまう。かといって、あまり男性が強すぎると軍隊みたいになってしまう。やっぱり女性、男性お互いに物が言える環境をつくっていくことが大事ですね。今度の地震でも、日ごろのおつき合いがあったから、地域の復旧活動がうまくいったのではないかと思います。

福岡県西方沖を震源とする地震 福岡市 50 代男性

「内閣府一日前プロジェクト」より抜粋

